

助成事業計画書

1 申請者の概要

(1) 連携体代表者

名称	〇〇食品株式会社		
代表者の役職・氏名	代表取締役 〇〇 〇〇		
住所 ホームページアドレス	郵便番号 000-0000 〇〇市〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号 http://www.ooo.co.jp		
担当 者	所属・役職・氏名 電話・ファックス番号 E-MAIL	企画部 商品企画課長 〇〇 〇〇 000-000-000 000-000-000 oooo@oooo-co.ne.jp	
資本金・出資金	10,000千円	従業員数	30人
主たる業種	〇〇食品製造業	設立日	平成〇年〇月〇日

* 申請者の会社等の概要がわかるパンフレット等を必ず添付すること。

(2) 連携体構成員（連携体代表者以外）

区分	名称 (企業名等)	代表者	住所	業種
1	△△農園	△△	△△市△△区△△町△丁目△番△号	農業者

* 連携体構成員の会社等の概要がわかるパンフレット等を必ず添付すること。

2 事業内容

事業名称（テーマ）	兵庫県内産△△有機野菜を活用した〇〇和菓子の開発
-----------	--------------------------

概要	<p>(1) 事業概要</p> <p>農産物を活用した事業の目的や開発する新商品等の特色等を10行程度で、簡潔に記載してください。（作成時には、この説明文書は削除してください。以下、同様です。）</p> <p>① 事業目的</p> <p>日本で生産される△△はその80%が兵庫県産であるが、国内生産△△のうち有機野菜の割合は5%に満たない。また、当社の既存商品は材料価格の高騰から過去3年間の販売が低調となっているものの、健康食品として販売している商品の売上げは昨今の消費者の健康志向から上昇方向にある。そこで、本事業は有機△△を活用してその独特な酸味の強さを生かした和菓子の開発することを目的とする。</p> <p>② 開発する新商品等の特色</p> <p>希少な国内産有機△△の活用のほか、それを饅頭皮に練りこむとともに、サイコロ状に加工・加熱処理をした△△が餡のなかにも入った他に類のない和菓子である。</p> <p>(2) 具体的研究開発方法</p> <p>以下の点に留意して研究開発・試作品製作の取組方法、達成目標を記載してください。なお、1年を超える事業として実施する場合は、1年目の研究開発の達成目標だけでなく2年目の達成目標も記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現商品の状況やこれまでの開発状況など事業の現状・課題（作成時には、この文書を削除してください。） ・新商品等開発に対して、中小企業者及び農林漁業者がそれぞれ取り組む内容（使用する経営資源、新しい工夫、役割等） <p>当社ではこれまでも〇〇を饅頭皮に練りこんだ商品を開発してきた実績がある。その練りこみ行程において・・・・・・を活用して・・・・・・という手法を開発した結果、皮全体に〇〇を満遍なく練りこむことを可能とした。</p> <p>本開発では、加熱処理により形崩れしやすいサイコロ状△△の形状をいかに残しつつ餡と均等に混ぜ合わせるか、△△の味覚をいかに最大限に引き出していくが課題である。</p>
----	---

	<p>今回、◇◇試作機を購入しサイコロ状の△△と餡の混合を行い、その・・・や・・・に関して最適な製造方法を構築し、試作品を開発することとしている。本開発においては、直に△△の味覚を楽しめるように・・・の処理を行いその形状を保ち、課題を解決していくものである。</p> <p>また、農業者は酸味度を高めた△△を有機農業で生産し、■■測定器による酸味測定を行うとともに◆◆装置による長期保存方法の開発を行うことにより、新商品に最適で味覚の優れた△△有機野菜の供給を目指すこととする。</p> <p>1年目達成目標 有機△△の形状を保った状態で餡との混合方法確立と展示会出展 2年目達成目標 有機△△を餡中に均等に配置する処理の確立と混合方法の向上</p> <p>(3) 事業成果（試作新商品等）の活用方法 成果物である試作品等の製作数量や用途等を記載してください。 開発した試作品約300個は百貨店バイヤーが集まる展示会（500～600人規模）へ出展し、その評価を得てさらに次年度への開発に反映させる。 ※適宜記載枠の拡大、資料添付（1、2枚程度）可</p>
	記載項目については、必ず記載してください。追加内容があれば適宜追加ください。
必要性	(記載項目) ①開発する商品等の社会的背景 ②開発する商品等のニーズ
新規・革新・優位性	(記載項目) ①開発する商品等の新規性・革新性 ②類似商品等との相違点、競争優位性 ③連携体の強み
市場性	(記載項目) ①開発する商品等の市場占有シェア及びその根拠 ②販路開拓の方法及び既存販路の活用方法 ③想定ユーザー・ターゲット（年齢・性別・地域等）
実現可能性	(記載項目) ①問題解決・目標達成の可能性 ②助成期間内における実現可能性
地域経済活性化への波及効果	(記載項目) ①申請者、連携者への効果 ②申請する助成事業による地域への波及効果や地域イメージ向上
その他特記事項	(記載項目（該当がある場合のみ） その他特に申告しておきたい内容があれば記載ください。) ①特許等取得状況（概要添付のこと） ②開発商品の公的機関認可等の必要性・取得予定 ③申請事業に関連して他機関からの助成等を受けた実績、受ける予定
事業の実施日程	(開始予定日) 平成30年 4月 1日 (完了予定日) 平成31年 3月 31日 (最終完了予定日) 平成32年 3月 31日 ※事業期間が1年を超える場合に記載。
事業成果の目標	(参考：記載に際しての留意事項) ①〇年以内に事業化すること、売上高が〇年には〇%の増加を目標とするなどと連携体構成員ごとに記載すること。 ②連携体の構成員毎に以下の基準以上で目標設定する必要があります。 ア 中小企業者等 事業化目標：3年以内とする。 売上目標：事業化を果たした年と事業化7年後（平成39年）との売上高増加率を4%以上とする。 イ 農林漁業者 事業化目標：3年以内とする。 売上目標：事業化を果たした年と事業化7年後（平成39年）との売上高増加率を2%以上とする。 ○○食品(株)：平成☆年事業化（開発商品の売上計上）、その後5年目で4%の売上増 △△農園：平成☆年事業化（開発商品の売上計上）、その後5年目で2%の売上増
その他	

3 事業資金計画及び事業スケジュール

(単位：円)

区 分	全体事業費 (a)=c+d+e	助成対象経費 (b)	助成申請(予定)額 (c)=b×2/3以内	自己資金等		
				自己資金(d)	借入金等(e)	
1 年 目	研究開発費	3,000,000	3,000,000	/	/	/
	販路開拓費	100,000	100,000			
	消費税及び地方消費税	248,000				
	小 計	3,348,000	3,100,000			
2 年 目	研究開発費	2,000,000	2,000,000	/	/	/
	販路開拓費	100,000	100,000			
	消費税及び地方消費税	168,000				
	小 計	2,268,000	2,100,000			
合 計	5,616,000	5,200,000	3,466,000	2,150,000	0	

注) 連携体全体の金額で記載し助成申請額(各年千円未満切捨)総額は500千円以上5,000千円以下とする。2年間の助成希望の場合は1、2年目ともに記載すること。ただし、申請は1年毎に行う必要があり、今回の交付申請金額も1年分であることを注意すること(1年以内で終了の場合は2年目の記載不要)。

実施時期	実施内容
申請前(平成30年3月末まで)の取組状況	<p>※助成金の交付決定は、平成30年4月1日(予定)であり、助成対象期間は、交付決定日以降に発生する経費です。</p> <p>8月 有機△△を使用した試作品の検討 11月 試作に当たった課題の抽出 △△を使用した〇〇の試作 12月～3月 課題解決のための方策の検討</p>
申請後1年目(平成30年4月(予定)から助成対象期間となります)	<p>4月 連携事業者 △△の種まき 10月 有機△△の収穫 11月 第2回目試作及び展示会出展検討 2月 展示会出展 3月 課題の再抽出</p>
申請後2年目	<p>4月 学識経験者と課題解決策の検討 10月 有機△△の収穫 11月 第3回目試作品完成(市場調査用200個) 2月 市場調査(お得意様試食会開催)</p>

注) ・助成申請が1年目の場合は、2年目の予定も助成申請の有無に関わらず記載すること(1年以内で終了の場合は2年目の記載不要)。
 ・助成申請が2年目の場合は、1年目の欄は実績(見込)を記載すること。
 ・現在開発中の商品について申請している場合は、いつから取り組んだのか、そして現在の取組状況が分かるように、上記の表を参考に実施時期、実施内容を記載し提出してください。